

※ 各法人の年度計画に係る業務実績を検証してください。実績の検証は法人ごとに行うものであり、法人間の比較を行うものではありません。

委員氏名 []

県立病院法人（三病院共通）委員検証シート

4ブロック：2-1-1 簡素で効果的な組織体制の確立～ 2-2-3 費用の削減

2-1-1 簡素で効果的な組織体制の確立

岐阜県総合医療センター			岐阜県立多治見病院			岐阜県立下呂温泉病院		
H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価	
	業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項	自己評価		業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項	自己評価		業務実績、自己評価の説明、特筆すべき事項	自己評価
<p>(1) 効率的かつ効果的な組織体制の構築 項目番号 44 理事長のイニシアチブの下、地方独立行政法人化に合わせて医療環境の変化や県民の医療需要に的確に対応できるよう組織体制の一部見直しを行い、弾力的な組織づくりを進める。</p>	<p>・地方独立行政法人化に合わせて、法人経営にかかる目標管理や会計基準への対応を強化するため経営企画課を新設した。 ・また、併せて人事労務関係業務を強化するため、総務課内に担当を新設した。</p>	III	<p>(1) 効率的かつ効果的な組織体制の構築 項目番号 41 理事長のリーダーシップが発揮できる効率的・効果的な組織体制を構築する。 院内の各種がより機能するよう、廃止を含めた一部見直しを行う。</p>	<p>効率的かつ効果的な組織体制の構築 ・医療環境の変化や住民の医療需要に的確に対応できるよう、経営企画機能及び地域医療連携機能を理事長のリーダーシップのもとに発揮できる体制に見直した。具体的には次年度から事務局に「経営企画課」を、また、医療連携室及び医療相談室を統合し、「地域医療連携センター」を新たに設置するため、準備を行った。</p>	III	<p>(1) 効率的かつ効果的な組織体制の構築 項目番号 36 理事長のリーダーシップが発揮できる組織体制を構築するとともに、事務部門の組織体制の強化を図る。</p>	<p>法人化後、業務量の増加に対応し、総務課管理調整担当に非常勤職員を1名配置することで、事務管理部門の組織体制を維持し、理事長のリーダーシップ発揮に支障が生じないように努めた。</p>	III
◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント		
<p>(2) 各種業務のIT化の推進 項目番号 45 平成21年度までに構築されたシステム及び地方独立行政法人化に合わせて導入された人事給与システム、経営管理システムなどのシステムが、各種事務処理において適切にアクセスできるか確認し、利便性の向上を図る。</p>	<p>・人事・給与システムをASPサービスの利用により導入するとともに、手当の増加や給与表の改定等にすみやかに対応するなど、給与計算事務を支援した。また、旅費計算を行うパッケージソフトを導入し、旅費計算事務の効率化を図った。</p>	III	<p>(2) 各種業務のIT化の推進 項目番号 42 平成21年度中に構築された事務系ITインフラの基本部分に対し、各職種職員へのアクセスの確認を行う。</p>	<p>各種業務のIT化の推進 ・今年度は、特に事務系IT端末の見直しを行い、病棟を中心に再配置した。 ・人事給与システム及び旅費システムを病院独自のものにカスタマイズを行い、主とする取扱者に対して随時操作研修を実施した。</p>	III	<p>(2) 各種業務のIT化の推進 項目番号 37 人事給与システム、旅費システム、経営管理システムなどのITを有効に活用するための研修会を開催する。</p>	<p>◆人事給与システム H22年4月分給与及びH22年6月分賞与支給処理にあたって、システム業者を招へいし、実務処理に基づく操作方法の研修を実施。 ◆経営管理システム 3法人合同の操作研修会（9月開催）に参加。</p>	III
◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント		

岐阜県総合医療センター			岐阜県立多治見病院			岐阜県立下呂温泉病院		
H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価	
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価
<p>(3) アウトソーシング導入による合理化 項目番号 46 定型的な業務のうち委託が可能なものについては、費用対効果や将来性等を考慮し、業務のスリム化を目指し、アウトソーシングの導入に向け検討する。</p>	<p>・契約の実態、金額等については契約審査会で個別の契約を審議している。 ・当センターが電子カルテシステムの中に管理しているCTやMRなどの画像データを患者からの依頼によりCD出力する定型作業について、アウトソーシングにより1,857件対応した。</p>	III	<p>(3) アウトソーシング導入による合理化 項目番号 43 定型的な業務や、現在委託を行っている業務について、費用対効果や、病院ことでのノウハウの必要性、中・長期的な視点も交えながら、業務のスリム化を進めるために、アウトソーシングを計画的に推進することを検討する。 平成22年度に駐車場整備とあわせて課金システムの導入を検討しているが、機器の設置から維持管理にいたる一連の業務を外部委託することで費用の抑制を図る。</p>	<p>アウトソーシング導入による合理化 ・平成元年から20年以上にわたり随意契約で委託契約している医療事務の業務委託について、平成23年度からの契約については、プロポーザル方式により業者決定した。プロポーザルを実施するにあたり、8月下旬から9月上旬にかけてDPCの機能評価係数の高い病院を中心に視察調査を実施した。 ・新たに整備を行った外来駐車場と従来の外来駐車場について導入した駐車場の課金システムについては、機器の設置からその後の運営に至るまで、病院側に費用が発生しないように条件提示し、プロポーザルにより運営委託業者を選定した。</p>	III	<p>(3) アウトソーシング導入による合理化 項目番号 38 定型的な業務についてはアウトソーシングを導入することにより各種事務合理化を進める。</p>	<p>アウトソーシングの導入可能な定期的な業務の検討を行ったものの、H22年度において導入可能な事案がなかったが、来期も継続して検討を行う。</p>	II
◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント		
<p>(4) 経営効率の高い業務執行体制の確立 項目番号 47 独立行政法人化に合わせて、経営企画機能部門を強化し、機動的、効率的な病院運営を図るため、「経営企画課」を新設し、経営環境の変化に対応できる業務執行体制を整備した。また、定年を迎えた職員のうち、病院経営に寄与すると認められる職員の再雇用を行った。 平成22年度実績 医師1名 事務1名</p>	<p>・独立行政法人化に合わせて、経営企画機能部門を強化し、機動的、効率的な病院運営を図るため「経営企画課」を新設し、経営環境の変化に対応できる業務執行体制を整備した。また、定年を迎えた職員のうち、病院経営に寄与すると認められる職員の再雇用を行った。 平成22年度実績 医師1名 事務1名</p>	III	<p>(4) 経営効率の高い業務執行体制の確立 項目番号 44 事務局職員の病院運営企画にかかわる能力向上の支援を行ったり、病院経営に寄与すると認められる職員が定年を迎えた場合の再雇用制度の積極的な活用を図り、経営企画機能を強化することで、経営効率の高い業務執行体制を確立する。 経営企画部門の設置を検討し、経営分析の研修に参加させる等、部門職員の体制強化を進めていく。</p>	<p>経営効率の高い業務執行体制の確立 ・病院の経営企画機能を強化するため、事務局に経営企画課を翌年度から設置するための準備を行った。経営企画課には、医療情報部門も統合し、各種医療統計情報を有効活用することにより経営分析の充実を図る。 ・また、職員の経営分析能力の向上を図るため、民間を含めた先進病院の視察(5病院)やDPC分析に関する各種研修、講演会等にも積極的に参加した。 ・定年を迎えた高度な専門性を有する職員を再雇用するため、人事給与関係の各種規程を整備した。</p>	III	<p>(4) 経営効率の高い業務執行体制の確立 項目番号 39 経営企画機能を強化することで、経営効率の高い業務執行体制を確立するとともに、職員の意見が反映されやすい風通しの良い組織運営に努め、「企業体意識」の向上を目指す。 また、定年を迎えた職員のうち、病院経営に寄与すると認められる職員を再雇用する制度を整備する。 さらに、各種経営分析を行い、その結果を経営に活用できる体制づくりに取り組む。</p>	<p>H23年1月より毎月第4木曜日開催の管理会議に職員の代表者2名がオブザーバーとして参加。管理会議後には職員と管理者(経営者)との意見交換を開催し、業務・経営に関する意見や提案などを病院運営に反映させ、風通しの良い組織づくりに努めた。 また、月次で作成する経営状況資料に「職員1人あたり医業収益」「月次の人件費支出額」などのデータを追加して周知することで、職員の経営意識の向上を図った。 【意見交換会実施日】 職員代表約4名、管理者 第1回：12/22 第2回： 2/21 第3回： 2/24 第4回： 3/24</p>	III
◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント		

岐阜県総合医療センター			岐阜県立多治見病院			岐阜県立下呂温泉病院		
H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価	
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価
			<p>(5) 時差出勤制度の導入 項目番号 45</p> <p>女性医師を対象に時差出勤制度を導入することで、女性医師のより積極的な病院運営参画を促す。 平成 22 年度には、診療時間の変更等により、試験的な運用を行う。</p>	<p>時差出勤制度の導入 平成 22 年度には希望者がおらず、時差出勤制度を適用する必要はなかった。ただし、対象者から申し入れがあった場合、診療科の人数や対象者の居住地等により運用に制限があり、今後の検討課題である。</p>	III			
			◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			検証結果		

県立病院法人（三病院共通）委員検証シート

2-1-2 組織体制、人員配置の弾力的運用

岐阜県総合医療センター			岐阜県立多治見病院			岐阜県立下呂温泉病院					
H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価			
<p>(1) 弾力的運用の実施 項目番号 48</p> <p>医療需要や患者動向の変化に迅速・柔軟に対応した診療科の変更、医師・看護師等の配置の弾力的運用を行う。</p> <p>平成22年度においては、脊椎脊髄外科センター、睡眠時無呼吸センター、前立腺センター、小児腎臓内科、総合診療科、外来化学療法センターを設置し、医療需要の変化や患者動向に迅速に対応する。</p>	<p>・平成22年度においては、不整脈科、総合麻酔科センター（第一麻酔科、第二麻酔科、ペインクリニック室）、心臓リハビリテーション部を設置し、医療需要の変化や患者動向に迅速に対応した。</p>	III	<p>(1) 弾力的運用の実施 項目番号 46</p> <p>医療需要の変化や患者動向に迅速に対応した診療科の変更、医師・看護師等の配置の弾力的運用を行うため、地域医療連携推進協議会や県立多治見病院運営協議会等を通じ、近隣医療機関、患者の意見、要望を収集する。</p>	<p>弾力的運用の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進協議会を4回、多治見病院運営協議会を2月に開催し、地域内の医療関係者等から意見聴取を行った。 ・平成22年度は、がん診療拠点病院としてふさわしい、東濃地域で初の緩和ケア病棟を6月に開設するために、消化器外科の医師を緩和ケアの専従医師として、看護師も、各病棟から選抜し、弾力的な運用で対応した。 	III	<p>(1) 弾力的運用の実施 項目番号 40</p> <p>医療需要の変化や患者の動向に迅速に対応するため、診療科の変更や医師・看護師等の配置の弾力的運用に努める。特に看護師については業務量に応じ柔軟な職員配置を行うとともに、適材適所の人事に努める。</p>	<p>【柔軟な勤務配置】</p> <p>入院患者数が少ない場合は、看護必要度の高いA3病棟への支援をする体制をとっている。A3病棟への支援は、業務内容から過去にA3病棟での勤務経験がある看護師を充てることが必要のため、看護師を柔軟に配置することで勤務経験者が支援に入れるように対応している。</p> <p>また、手術室等の専門性の高い部署の看護師は他部署への支援が難しいが、支援先を固定することで人材の有効活用を図った。</p> <p>*全部署からの総支援時間数 2360.6時間</p>	III			
◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			検証結果	◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			検証結果	◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			検証結果
<p>(2) 効果的な体制による医療の提供 項目番号 49</p> <p>常勤以外の雇用形態を含む多様な専門職の活用など、効果的な体制による医療の提供に努める。</p> <p>特に、医療職サポートシステム（医療クラーク：7人（平成21年度）→13人、病棟等看護クラーク：5人（平成21年度）→10人）の強化、充実を図る。</p>	<p>・医療職サポートシステムの強化、充実を図るため各種クラークを採用した。（平成22年度末）</p> <p>○医療クラーク：20人、病棟等看護クラーク：16人</p>	III	<p>(2) 効果的な体制による医療の提供 項目番号 47</p> <p>常勤以外の雇用形態を含む多様な専門職の活用など、効果的な体制による医療の提供に努めるため、各医療現場のニーズにあった適正な人材を公募等により確保する。</p>	<p>効果的な体制による医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人化に伴い病院（法人）の判断で必要な時期に必要な職員を採用することが可能となった。そのため、年度途中で正規職員として看護師9名、臨床工学技士1名を採用し、効果的に配置することができた。 ・県のがん診療連携拠点事業、生活習慣病医療連携事業を活用し、社会福祉士の資格を持つ連携コーディネーターとして2名を採用し、連携バスの構築、退院調整の推進に効果があった。 ・医師及び看護師の負担軽減のため、医師事務作業補助者（医師クラーク）を7月に5名、8月に2名、10月に1名、病棟事務作業補助者（看護クラーク）を5月に1名、9月に2名採用した。 <p>○22年度末医師・看護師事務作業補助者の人数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師事務作業補助者 7名 ・病棟事務作業補助者 8名 	III	<p>(2) 効果的な体制による医療の提供 項目番号 41</p> <p>職種の特長に基づき、多様な勤務形態の非常勤専門職を活用することで、効率的に医療を提供する。</p> <p>また、各医療現場のニーズにあった適正な人材確保に努める。</p>	<p>【多様な勤務形態の非常勤職員の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆当院を退職した看護師等の4時間の短時間パートの採用（計4名） 勤務場所に応じて必要な時間帯に勤務できるよう、個別に勤務時間を調整した。 ◆サポートセンターの業務のうち、委託で行っていた医療クラーク的な事務を再編し、医師事務作業補助者として専門職3名を採用した。このことにより医師事務作業補助加算を算定するとともに、医師事務の負担軽減を図った。 	III			
◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			検証結果	◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			検証結果	◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			検証結果

岐阜県総合医療センター			岐阜県立多治見病院			岐阜県立下呂温泉病院												
H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価											
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価										
<p>(3) 3法人間の人事交流による適正な職員配置（人材活用のネットワーク化）</p> <p>地方独立行政法人岐阜県立多治見病院及び地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院間で、職種の特異性に配慮し、積極的に人事交流を行う。特に平成22年度は地方独立行政法人化初年度ということもあり、職種による人材の過不足を相互に補い、適正な職員配置を実現する。</p> <p>項目番号 50</p>	<p>・3法人間の人事交流による適正な職員配置（人材活用のネットワーク化）を実施した。</p> <p>・人事交流実績（出向）</p> <p>他法人からの出向（受入）2名〔看護師（下呂病院1名）、コメディカル（下呂病院1名）〕</p> <p>他法人への出向 11名〔看護師（多治見病院1名）、コメディカル（多治見病院4名、下呂病院6名）〕</p>	III	<p>(3) 3法人間の人事交流による適正な職員配置（人材活用のネットワーク化）</p> <p>項目番号 48</p> <p>3法人間の人事交流により（人材活用のネットワーク化）適正な職員配置を確保する。特に平成22年度は、独立行政法人化初年度ということもあり、職種によっては人員に過不足が生じるため、3法人間で相互に職員を派遣し、医療サービスの水準を維持する。</p>	<p>3法人間の人事交流による適正な職員配置（人材活用のネットワーク化）</p> <p>○当院→他病院</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>派遣先</th> <th>人数及び職員の内訳</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>下呂温泉病院</td> <td>臨床検査技師 4名 理学療法士 1名 作業療法士 2名 計 7名</td> </tr> </tbody> </table> <p>○他病院→当院</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>派遣元</th> <th>人数及び職員の内訳</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>岐阜県総合医療センター</td> <td>看護師 1名 薬剤師 1名 臨床検査技師 1名 診療放射線技師 1名 作業療法士 1名 計 5名</td> </tr> <tr> <td>下呂温泉病院</td> <td>看護師 1名 薬剤師 1名 診療放射線技師 1名 計 3名</td> </tr> </tbody> </table>	派遣先	人数及び職員の内訳	下呂温泉病院	臨床検査技師 4名 理学療法士 1名 作業療法士 2名 計 7名	派遣元	人数及び職員の内訳	岐阜県総合医療センター	看護師 1名 薬剤師 1名 臨床検査技師 1名 診療放射線技師 1名 作業療法士 1名 計 5名	下呂温泉病院	看護師 1名 薬剤師 1名 診療放射線技師 1名 計 3名	III	<p>(3) 3法人間の人事交流による適正な職員配置（人材活用のネットワーク化）</p> <p>項目番号 42</p> <p>地方独立行政法人岐阜県総合医療センター及び地方独立行政法人岐阜県立多治見病院間での人事交流を積極的に行うことで、適正な人員配置を実現する。</p> <p>特に平成22年度は、地方独立行政法人化初年度ということもあり、職種によっては人員に過不足が生じるため、3法人間で相互に職員を派遣し、医療サービスの水準を維持する。</p>	<p>地方独立行政法人岐阜県総合医療センター及び地方独立行政法人岐阜県立多治見病院との間で「職員の出向に関する協定書」を締結して、3病院間で過不足となる医療従事者の派遣を行い、医療サービスの水準を維持するための人員配置を行った。</p> <p>◆センター→下呂</p> <p>薬剤師 3名 臨床工学技士 1名 理学療法士 1名 作業療法士 1名</p> <p>◆下呂→センター</p> <p>看護師 1名 理学療法士 1名</p> <p>◆多治見→下呂</p> <p>臨床検査技師 4名 理学療法士 1名 作業療法士 2名</p> <p>◆下呂→多治見</p> <p>看護師 1名 薬剤師 1名 診療放射線技師 1名</p>	III
派遣先	人数及び職員の内訳																	
下呂温泉病院	臨床検査技師 4名 理学療法士 1名 作業療法士 2名 計 7名																	
派遣元	人数及び職員の内訳																	
岐阜県総合医療センター	看護師 1名 薬剤師 1名 臨床検査技師 1名 診療放射線技師 1名 作業療法士 1名 計 5名																	
下呂温泉病院	看護師 1名 薬剤師 1名 診療放射線技師 1名 計 3名																	
◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント		検証 結果	◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント		検証 結果	◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント		検証 結果										

県立病院法人（三病院共通）委員検証シート

2-1-3 人事評価システムの構築

岐阜県総合医療センター			岐阜県立多治見病院			岐阜県立下呂温泉病院					
H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価				
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価			
<p>職員の業績や能力を職員の給与に反映し、職員の人材育成、人事管理に活用するための公正で客観的な人事評価制度を構築する。なお、中期目標の期間内に当該制度を試行的に実施するため、県内・他県の先進事例を参考に、独自の人事評価制度の構築に向け検討する。 項目番号 51</p>	<p>・人事評価制度構築への取り組み状況 独自の人事評価制度の構築に向け、先進病院（相澤病院）への視察や、研修会（8/29 東京、3/29 大阪）に参加した。</p>	III	<p>職員の業績や能力を職員の給与に反映し、職員の人材育成、人事管理に活用するため、平成22年度は、当院と同等規模病院の先進事例等を参考に、当院独自の制度の構築を検討する。 項目番号 49</p>	<p>人事評価システムの構築に向けて、民間病院（トヨタ記念病院・山田赤十字病院）の先進事例を視察調査するとともに、他の地方独立行政法人における取組状況に関する資料を収集した。</p>	III	<p>職員の勤務意欲を高めるため、職員の実績や能力を職員の給与に反映した公正で客観的な人事評価制度の構築に向けて検討を行う。 項目番号 43</p>	<p>従来から運用している昇給・昇格制度に則り、職員の昇給・昇格にかかる規程類に定める、勤務年数や成績に応じた職員の評価を給与に反映させているが、新たな人事評価制度構築の検討は平成22年度においては情報収集に留まっているため、年度計画を下回っているとした。 来期以降は先進病院の視察や研修会への参加により積極的な検討を行っていく。</p>	II			
◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			検証結果	◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			検証結果	◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			検証結果

県立病院法人（三病院共通）委員検証シート

2-1-4 事務部門の専門性の向上

岐阜県総合医療センター			岐阜県立多治見病院			岐阜県立下呂温泉病院		
H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価	
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価
<p>地方独立行政法人化に合わせて、事務局の組織体制を見直し、特に新たに必要となる人事労務機能の強化のため、総務課内に「人事労務担当」、経営管理機能を強化するため、「経営企画課」を新設し、専門性の向上を図るとともに、法人化後の問題点と課題を論点整理し、今後の体制について検討する。</p> <p>また、診療報酬等の専門研修、病院経営に係る財務経営分析等の研修、危機管理に関する研修などへの参加を支援するとともに、プロパー（事務職）職員を計画的に採用し、事務部門の病院運営や医療事務に精通した職員を確保する。</p> <p>項目番号 52</p>	<ul style="list-style-type: none"> 総務課内に「人事労務担当」を設置し、プロパー（事務職）職員を計画的に採用（事務職員5名）し病院運営や医療事務に精通した事務職員を確保した。 「経営企画課」を新設し、経営状況の分析、課題への取組等について経営会議において検討し、収益体質の向上や効率的な経営に取り組み収益の増加やコスト削減に寄与した。 施設基準 診療内容を精査し、22項目を新規に届出し、収益性の向上に取り組んだ。 登録診療材料の削減による効率化約9,400件 診療材料管理件数 約19,000件→約9,600件 	III	<p>病院特有の事務に精通し、法人の事務及び経営の中心となるプロパー職員を計画的に確保するため、企業会計、庁舎管理、医事会計、電子カルテシステム等病院内各分野に精通した事務局職員を計画的に採用し育成する。</p> <p>また、診療報酬事務、病院経営等の専門研修を実施し事務部門の総合的な専門性の向上を図る。その一環として平成22年度には、医事担当職員1名を対象に診療情報管理士資格取得のための支援を行う。（2年間の通信制講習受講料を病院で負担）</p> <p>項目番号 50</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度新規採用事務職員を募集し、5名を採用した。（うち1名は社会保険労務士） また県職員のうち企業会計や福祉相談分野等に経験のある県派遣職員が新たに4名転籍（プロパー化）し、プロパー職員は計16名となった。 各種団体が実施する診療報酬、DPCに係る専門研修等への参加を奨励した。 医事担当職員1名を対象に診療情報管理士資格取得のための支援を実施した。（資格取得には2年間の通信制講習が必要で本年度は1年目。平成23年度中の資格取得を目指す。受講料を病院で負担） 	III	<p>病院特有の事務に精通し、法人の事務及び経営の中心となるプロパー職員を計画的に確保するとともに、プロパー職員には診療報酬事務、病院経営等の専門研修に積極的に出席させるなど、事務部門の専門性の向上に努める。</p> <p>また、診療報酬事務担当職員及び経営事務担当職員を各種団体が実施する専門研修に出席させることとともに、病院経営幹部職員も各種病院マネジメント研修を受講し、経営改善に役立てる。</p> <p>項目番号 44</p>	<p>事務局職員の専門性向上のための研修等受講状況</p> <p>【医療サービス課職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 初任者診療報酬管理研修会 1名 5月14日（東京） 病院経営セミナー 1名 1月27日（名古屋市） <p>【総務課職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 消費税、会計処理実務研修 1名 2月7～8日（名古屋市） 地方独立行政法人の会計研修 1名 11月10日（岐阜市） 	III
◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント		

県立病院法人（三病院共通）委員検証シート

2-2-1 多様な契約手法の導入

岐阜県総合医療センター			岐阜県立多治見病院			岐阜県立下呂温泉病院		
H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価	
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価
<p>地方独立行政法人制度の特徴を活かした業務内容の見直しや効率化を通じて、収支の改善を図る。 項目番号 53</p>	<ul style="list-style-type: none"> 入札制度検討準備委員会設置および検討結果 手術ガウン・機器シートなどこれまで寡占状態で納入されていたものを他社(複数)のデモ製品のアンケートを取り、比較・交渉を実施した結果、約40%安い納入価格で契約を締結できた。 また、使用数量の多い手袋の他社製品比較を実施し約50%の納入価格低減が出来た。 保守契約の複数年契約による削減 医療機器の購入と同時に保守契約を行う交渉を行った。 各部署における診療材料の定数品目及び数量の見直しを行った。 	III	<p>病院関連の委託業務について、事務合理化を図れるよう委託内容や契約方法の見直し等を検討する。また、電話交換業務、新生児搬送車運行業務、電話交換機保守点検業務など毎年定型的(費用の変動が少ない)な業務について、複数年契約を採用し、費用の抑制を目指す。 項目番号 51</p>	<ul style="list-style-type: none"> 病院関連の業務委託契約について、理事長が中心となり契約内容及び契約方法の再検討を行い、全体的な見直しを行った。 平成元年から20年以上にわたり随意契約で委託契約している医療事務の業務委託について、平成23年度からの契約については、プロポーザル方式により業者決定した。 これまで別々に契約していた看護補助業務、院内洗濯業務及びSPD運用業務について、平成23年度から包括契約として集約化することに決定した(3,360千円/年削減予定)。 医療機器保守など定型的な業務については複数年契約を導入することによって経費の削減に成功した。 長年、随意契約していた検体の外部検査委託を平成23年度から競争入札により契約した。 →契約金額対前年度比約△5.3% なお電話交換業務や新生児搬送車運行業務等については検討の結果、複数年契約のメリットがあまり認められなかったことにより今回導入を見送った。 	IV	<p>民間病院の取り組みを参考に、維持管理業務委託などで複数年契約や複合契約などの多様な契約手法の導入により、契約事務の集約化・簡素化・迅速化を図る。</p> <p>特に、高度医療機器については、購入後のメンテナンス費用も考慮する必要があることから、メンテナンスも含めた入札、契約方法の導入について検討を行う。 項目番号 45</p>	<p>【管財】維持管理業務について、個別に契約していた類似の委託業務(手術室の「空調フィルタ交換・消毒業務」及び「細菌モニタリング・消毒業務」)について、一括契約することにより経費の節減(△400千円)を図った。</p> <p>【用度】高度医療機器について、購入後のメンテナンス費用も含めた総額入札を行う場合は機器購入先とメンテナンス(いわゆる保守)業者が同一業者であることが前提となり、これらをふまえて契約方法の検討を来期以降も継続する。</p>	III
◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント		

県立病院法人（三病院共通）委員検証シート

2-2-2 収入の確保

岐阜県総合医療センター			岐阜県立多治見病院			岐阜県立下呂温泉病院																																																																																																																																																												
H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価	自己評価	H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価	自己評価	H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価	自己評価																																																																																																																																																										
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項			業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項			業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項																																																																																																																																																											
<p>(1) 効果的な病床管理、医療機器の効率的な活用 [項目番号 54] 担当看護師の配置と空床管理マニュアルにより、効率的な病床管理を徹底し、病床利用率の向上に取り組む。また、医療機器については、開放型病床登録医師（地域開業医師）との病診連携を密にし、開放型病床を活用することで、医療機器の稼働率の向上を図る。</p>	<p>・地域の医療機関等との連携として、共同指導、病床(100床)・設備の開放を行い病診連携を推進した。 ・開放型病床利用率、共同指導回数(月平均)の推移</p> <table border="1"> <tr><th>項目・年度</th><th>20</th><th>21</th><th>22</th></tr> <tr><td>共同指導</td><td>23.1</td><td>15.8</td><td>12.7</td></tr> <tr><td>病床利用率</td><td>71.4</td><td>72.6</td><td>75.3</td></tr> </table> <p>・MRI、CT、胃カメラ等の検査は登録医からのFAXにより気軽に予約が可能となっている。</p> <p>○実績</p> <table border="1"> <tr><th>項目・年度</th><th>20</th><th>21</th><th>22</th></tr> <tr><td>FAX 予約</td><td>7,092</td><td>7,925</td><td>8,573</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><th colspan="2"></th><th>H22</th><th>H21</th><th>H22/H21</th></tr> <tr><td rowspan="4">外 来</td><td>患者数</td><td>人</td><td>274,440</td><td>261,566</td><td>104.9</td></tr> <tr><td>平均患者数</td><td>人/日</td><td>1,129</td><td>1,081</td><td>—</td></tr> <tr><td>診療額</td><td>百万円</td><td>3,965</td><td>3,568</td><td>111.1</td></tr> <tr><td>診療単価</td><td>円/日</td><td>14,448</td><td>13,641</td><td>105.9</td></tr> <tr><td rowspan="5">入 院</td><td>患者数</td><td>人</td><td>191,389</td><td>184,440</td><td>103.8</td></tr> <tr><td>平均患者数</td><td>人/日</td><td>524</td><td>505</td><td>—</td></tr> <tr><td>診療額</td><td>千円</td><td>11,590</td><td>10,610</td><td>109.2</td></tr> <tr><td>診療単価</td><td>円/日</td><td>60,555</td><td>57,526</td><td>105.3</td></tr> <tr><td>在院日数</td><td>日</td><td>13</td><td>13</td><td>103.1</td></tr> <tr><td>病床稼働率</td><td>%</td><td>89</td><td>86</td><td>103.9</td></tr> </table>	項目・年度	20	21	22	共同指導	23.1	15.8	12.7	病床利用率	71.4	72.6	75.3	項目・年度	20	21	22	FAX 予約	7,092	7,925	8,573			H22	H21	H22/H21	外 来	患者数	人	274,440	261,566	104.9	平均患者数	人/日	1,129	1,081	—	診療額	百万円	3,965	3,568	111.1	診療単価	円/日	14,448	13,641	105.9	入 院	患者数	人	191,389	184,440	103.8	平均患者数	人/日	524	505	—	診療額	千円	11,590	10,610	109.2	診療単価	円/日	60,555	57,526	105.3	在院日数	日	13	13	103.1	病床稼働率	%	89	86	103.9	III	<p>(1) 効果的な病床管理、医療機器の効率的な活用、DPCの推進 最も医療資源を投入した診断群分類のコーディングを考慮しつつ、より効率的な医療資源の投入に繋がるよう、検査、処置、投薬等の診療データの収集・分析ができる体制づくりを検討する。また、パスの活用による病床利用の効率的な運用、医療機器の効果的な運用についても検討する。 [項目番号 52]</p> <p>効果的な病床管理、医療機器の効率的な活用、DPCの推進 ・医業収益の約7割を占める入院収益において経営的な視点に立ち、DPCの効率的、標準的な運用を図っていくことが、DPC環境下にある急性期病院の経営戦略として極めて重要であることから、出来高請求とDPC請求の差額分析や在院日数や医療資源などの各種指標分析による医療の質の検証とともに他院とのベンチマークを通して、当院の現状を把握し、対策を講じていくことが不可欠であることから、DPC分析ツールとしてのシステムを導入した。 (平成22年10月から3年間のリース契約により導入)</p> <p>○病床管理状況の対前年度比較</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>H21</th><th>H22</th></tr> <tr><td>病床稼働率(%)</td><td>68.5</td><td>77.0</td></tr> <tr><td>平均在院日数</td><td>13.2</td><td>13.0</td></tr> <tr><td>一日当たり外来患者数</td><td>1,112</td><td>1,145</td></tr> <tr><td rowspan="2">患者一人当たり 診療額(円)</td><td>入院</td><td>50,804</td><td>54,931</td></tr> <tr><td>外来</td><td>11,873</td><td>12,161</td></tr> </table>	年度	H21	H22	病床稼働率(%)	68.5	77.0	平均在院日数	13.2	13.0	一日当たり外来患者数	1,112	1,145	患者一人当たり 診療額(円)	入院	50,804	54,931	外来	11,873	12,161	III	<p>(1) 効果的な病床管理、医療機器の効率的な活用 病床利用率については、病棟ごとの稼働率を常に把握し、病院全体として効率的な活用ができるよう病床管理の徹底を引き続き行う。 医療機器については、医師確保により稼働率の向上を目指すとともに、有効活用の点から開業医等の受託促進に努める。 [項目番号 46]</p> <p>病棟ごとの稼働率を常に把握し、病院全体として効率的な活用ができるよう病床管理の徹底を引き続き実施。 ◆病床利用率</p> <table border="1"> <tr><th>病棟</th><th>21年度</th><th>22年度</th></tr> <tr><td>A-3</td><td>58.7%</td><td>59.7%</td></tr> <tr><td>A-5</td><td>53.6%</td><td>54.3%</td></tr> <tr><td>B-2</td><td>78.6%</td><td>61.3%</td></tr> <tr><td>B-3</td><td>67.2%</td><td>69.5%</td></tr> <tr><td>B-4</td><td>61.3%</td><td>64.5%</td></tr> <tr><td>B-5</td><td>65.4%</td><td>59.2%</td></tr> <tr><td>全体</td><td>55.8%</td><td>53.9%</td></tr> </table> <p>◆その他の指標</p> <table border="1"> <tr><th>項目</th><th>21年度</th><th>22年度</th></tr> <tr><td>入院患者数</td><td>66,164 人</td><td>63,884 人</td></tr> <tr><td>1日平均入院患者数</td><td>181 人</td><td>175 人</td></tr> <tr><td>平均在院日数</td><td>16.9 日</td><td>17.7 日</td></tr> <tr><td>入院収益</td><td>2,421,748 千円</td><td>2,456,820 千円</td></tr> <tr><td>入院診療単価</td><td>36,602 円</td><td>38,458 円</td></tr> <tr><td>外来患者数</td><td>100,162 人</td><td>86,477 人</td></tr> <tr><td>1日平均外来患者数</td><td>414 人</td><td>356 人</td></tr> <tr><td>外来収益</td><td>909,887 千円</td><td>890,907 千円</td></tr> <tr><td>外来診療単価</td><td>9,084 円</td><td>10,302 円</td></tr> <tr><td>室料差額収益</td><td>11,872 千円</td><td>12,558 千円</td></tr> <tr><td>受託検査収益</td><td>1,716 千円</td><td>1,867 千円</td></tr> </table> <p>注1) 平均在院日数は重症者・回復期病棟等を除く 注2) 金額は税込で表示</p>	病棟	21年度	22年度	A-3	58.7%	59.7%	A-5	53.6%	54.3%	B-2	78.6%	61.3%	B-3	67.2%	69.5%	B-4	61.3%	64.5%	B-5	65.4%	59.2%	全体	55.8%	53.9%	項目	21年度	22年度	入院患者数	66,164 人	63,884 人	1日平均入院患者数	181 人	175 人	平均在院日数	16.9 日	17.7 日	入院収益	2,421,748 千円	2,456,820 千円	入院診療単価	36,602 円	38,458 円	外来患者数	100,162 人	86,477 人	1日平均外来患者数	414 人	356 人	外来収益	909,887 千円	890,907 千円	外来診療単価	9,084 円	10,302 円	室料差額収益	11,872 千円	12,558 千円	受託検査収益	1,716 千円	1,867 千円	III
項目・年度	20	21	22																																																																																																																																																															
共同指導	23.1	15.8	12.7																																																																																																																																																															
病床利用率	71.4	72.6	75.3																																																																																																																																																															
項目・年度	20	21	22																																																																																																																																																															
FAX 予約	7,092	7,925	8,573																																																																																																																																																															
		H22	H21	H22/H21																																																																																																																																																														
外 来	患者数	人	274,440	261,566	104.9																																																																																																																																																													
	平均患者数	人/日	1,129	1,081	—																																																																																																																																																													
	診療額	百万円	3,965	3,568	111.1																																																																																																																																																													
	診療単価	円/日	14,448	13,641	105.9																																																																																																																																																													
入 院	患者数	人	191,389	184,440	103.8																																																																																																																																																													
	平均患者数	人/日	524	505	—																																																																																																																																																													
	診療額	千円	11,590	10,610	109.2																																																																																																																																																													
	診療単価	円/日	60,555	57,526	105.3																																																																																																																																																													
	在院日数	日	13	13	103.1																																																																																																																																																													
病床稼働率	%	89	86	103.9																																																																																																																																																														
年度	H21	H22																																																																																																																																																																
病床稼働率(%)	68.5	77.0																																																																																																																																																																
平均在院日数	13.2	13.0																																																																																																																																																																
一日当たり外来患者数	1,112	1,145																																																																																																																																																																
患者一人当たり 診療額(円)	入院	50,804	54,931																																																																																																																																																															
	外来	11,873	12,161																																																																																																																																																															
病棟	21年度	22年度																																																																																																																																																																
A-3	58.7%	59.7%																																																																																																																																																																
A-5	53.6%	54.3%																																																																																																																																																																
B-2	78.6%	61.3%																																																																																																																																																																
B-3	67.2%	69.5%																																																																																																																																																																
B-4	61.3%	64.5%																																																																																																																																																																
B-5	65.4%	59.2%																																																																																																																																																																
全体	55.8%	53.9%																																																																																																																																																																
項目	21年度	22年度																																																																																																																																																																
入院患者数	66,164 人	63,884 人																																																																																																																																																																
1日平均入院患者数	181 人	175 人																																																																																																																																																																
平均在院日数	16.9 日	17.7 日																																																																																																																																																																
入院収益	2,421,748 千円	2,456,820 千円																																																																																																																																																																
入院診療単価	36,602 円	38,458 円																																																																																																																																																																
外来患者数	100,162 人	86,477 人																																																																																																																																																																
1日平均外来患者数	414 人	356 人																																																																																																																																																																
外来収益	909,887 千円	890,907 千円																																																																																																																																																																
外来診療単価	9,084 円	10,302 円																																																																																																																																																																
室料差額収益	11,872 千円	12,558 千円																																																																																																																																																																
受託検査収益	1,716 千円	1,867 千円																																																																																																																																																																
◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント		検証	◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント		検証	◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント		検証																																																																																																																																																										

岐阜県総合医療センター			岐阜県立多治見病院			岐阜県立下呂温泉病院																																															
H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価																																														
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価																																													
<p>(2) 未収金の発生防止対策等 項目番号 55</p> <p>診療報酬の請求もれ防止と未収金の発生の未然防止を徹底するため、相談窓口拡充を図る。発生した未収金については、債権回収業者への回収委託など先進的な取組を行っている病院の取り組みを参考に実効性のある回収手段を検討する。また、診療費の支払いがしやすい環境を整えるため、クレジットカード払い等について検討する。</p>	<p>○発生防止</p> <ul style="list-style-type: none"> 入院説明室を新たに設置 (H22.5) し、入院決定時に概算費用の提示や福祉制度の説明など医療相談員への仲介を実施した。 医療相談員により、救急搬送患者に対する身元確認、保険確認を早期に行い、医療保険制度の活用を紹介するなど高額な患者負担額とならないよう努めた。 出産に伴う入院費について、出産一時金直接払制度を全ての出産について利用していただくよう徹底を図った。制度の利用が困難な事案については、医療相談員の介入を早期に実施し、退院時の支払が出来るよう支援を行った。 <p>○催告</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月2回、定期的に督促状を發布し、早期に未収金回収に着手した。 督促状発布後、随時催告状を発送するとともに必要に応じ夜間電話催告や臨宅催告を行った。催告状：約100件/月、電話催告：約50件/月 未納者が受診した際には、面談による納付催告実施した。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> クレジットカード決済を導入 (H22.7) し、支払機会の拡大を図ることで、入院費などの高額な支払が円滑に出来るよう体制を整えた。 回収困難な未収金について、弁護士法人に回収業務を委託することで法的処理も念頭に置いた回収策を導入した。(H23.2) <p>○未収金発生状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>2,191</td> <td>2,066</td> <td>-125</td> </tr> <tr> <td>未収金 (千円)</td> <td>106,868</td> <td>116,133</td> <td>9,265</td> </tr> </tbody> </table>		H21	H22	前年比	件数	2,191	2,066	-125	未収金 (千円)	106,868	116,133	9,265	III	<p>(2) 未収金の発生防止対策等 項目番号 53</p> <p>診療報酬の請求漏れを防止する観点から、今年度、特に管理料について漏れを防ぐために、電子カルテでのチェックシステム、内査を含めたチェック体制の構築を検討する。また、未収金発生時での防止を図る観点から、コンビニでの収納の検討も行う。</p> <p>発生した未収金については、夜間等を含めた電話催告の充実、臨宅の定期化等、実効的な回収を推し進め、高額な債権で回収見込みの高いものについては、実効性のある回収の手続きについて検討する</p>	<p>未収金の発生防止対策等 未収金の発生防止対策等を徹底した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入院案内センターにおける入院時説明の徹底 入院申込書提出時の連帯保証人確認 生活保護や公費負担医療制度の活用 夜間電話催告の実施 (毎月) 臨宅催告の実施 支払い手段の充実として、クレジットカード決済の導入 未収金回収業務委託の準備としてプロポーザルを実施し、業者を決定した 未収金のコンビニ収納の導入については、費用対効果を慎重に勘案して23年度も継続して検討する。 <p>○未収金の発生状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">H21年度末</th> <th colspan="2">H22年度末</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>金額(千円)</th> <th>件数</th> <th>金額(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>過年分</td> <td>873</td> <td>52,209</td> <td>891</td> <td>54,091</td> </tr> <tr> <td>現年分</td> <td>1,087</td> <td>67,151</td> <td>1,115</td> <td>81,889</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,960</td> <td>119,360</td> <td>2,006</td> <td>135,980</td> </tr> </tbody> </table>		H21年度末		H22年度末		件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	過年分	873	52,209	891	54,091	現年分	1,087	67,151	1,115	81,889	合計	1,960	119,360	2,006	135,980	III	<p>(2) 未収金の発生防止対策等 項目番号 47</p> <p>分納制度及び公的制度を可能な限り利用した未収金の発生防止対策を積極的に進めるほか、使用料・手数料についても、県内の公立病院及び民間病院の状況を把握することで、適正な使用料・手数料の算定できるよう努める。また、未収金発生リスクの軽減を図るため、コンビニ収納導入の検討を行う。</p> <p>さらに、未収金の回収方法については、少額訴訟制度の活用も検討する。</p>	<p>未収金発生防止については、患者負担を減らすことを第一に考え、入院の際に高額医療費限度額適用申請や出産育児一時金代理申請 (妊婦のみ) の手続きを説明し申請を促した。また、発生した未収金に対し、支払困難者については分納制度を勧め、場合によっては預金口座振替を活用するなど、未収金額を減らすよう努めた。</p> <p>費用に見合う収益を確保するため、産科に係る料金 (分娩料、新生児管理料) を4月から値上げした。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>分娩料</td> <td>150,000 円</td> <td>170,000 円</td> </tr> <tr> <td>新生児管理料</td> <td>7,510 円</td> <td>13,500 円</td> </tr> </tbody> </table>		変更前	変更後	分娩料	150,000 円	170,000 円	新生児管理料	7,510 円	13,500 円	III
	H21	H22	前年比																																																		
件数	2,191	2,066	-125																																																		
未収金 (千円)	106,868	116,133	9,265																																																		
	H21年度末		H22年度末																																																		
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)																																																	
過年分	873	52,209	891	54,091																																																	
現年分	1,087	67,151	1,115	81,889																																																	
合計	1,960	119,360	2,006	135,980																																																	
	変更前	変更後																																																			
分娩料	150,000 円	170,000 円																																																			
新生児管理料	7,510 円	13,500 円																																																			
◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント																																															

岐阜県総合医療センター			岐阜県立多治見病院			岐阜県立下呂温泉病院																		
H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価																	
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価																
<p>(3) 入院時医学管理加算として退院時の開業医への紹介率（退院時加算等40%以上）の向上 項目番号56 現在の入院時医学管理加算等の加算を維持するとともに、小児入院医療管理料3や褥瘡ハイリスク患者ケア加算など診療報酬を増やし収入が確保できる診療体制を整備する。</p>	<p>・入院時医学管理加算（総合入院体制加算）として退院時の開業医への紹介率（退院時加算等40%以上）の向上が達成できた。</p> <p>・実績 (%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目・年度</th> <th>20</th> <th>21</th> <th>22</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>56.1</td> <td>59.5</td> <td>61.5</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>72.1</td> <td>71.2</td> <td>73.4</td> </tr> <tr> <td>退院時加算</td> <td>44.5</td> <td>44.7</td> <td>42.1</td> </tr> </tbody> </table>	項目・年度	20	21	22	紹介率	56.1	59.5	61.5	逆紹介率	72.1	71.2	73.4	退院時加算	44.5	44.7	42.1	IV				<p>(3) 施設基準の取得 項目番号48 診療報酬制度については、入院基本料の診療報酬最高額である7対1看護体制を維持するとともに、非常勤医師の常勤化や経験年数の長い医師の確保等により冠動脈CT撮影加算やハイリスク分娩管理加算等の新たな施設基準の取得を目指す。</p>	<p>入院基本料7対1看護体制の維持とともに平成22年度に次の施設基準を取得 （主なもの）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ハイリスク分娩管理加算 H22.4.1取得 （医師減によりH22.6.1辞退） H23.2.1取得 ◆医師事務作業補助体制加算(100対1) H22.9.1取得 ◆急性期看護補助体制加算I(50対1) H22.4.1取得 ◆透析液水質確保加算 H22.4.1取得 	III
項目・年度	20	21	22																					
紹介率	56.1	59.5	61.5																					
逆紹介率	72.1	71.2	73.4																					
退院時加算	44.5	44.7	42.1																					
◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント																		

県立病院法人（三病院共通）委員検証シート

2-2-3 費用の削減

岐阜県総合医療センター			岐阜県立多治見病院			岐阜県立下呂温泉病院																																																				
H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価																																																			
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己評価		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己評価		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己評価																																																		
<p>・全国自治体病院協議会医薬品ベンチマーク・分析システム事業に参加し、医薬品の適正な管理、購入価格の削減に活かす。</p> <p>・医薬品費、診療材料費等の材料費を対前年度比で1%の削減を図る。</p> <p>・材料費について医療収益の30%以下を目指す。</p> <p>・ジェネリック医薬品の使用率を6.4%（平成21年度）から9.7%以上を目指す。</p> <p>項目番号57</p>	<p>・医薬品・診療材料等の購入方法の見直し、適正在庫管理の徹底や後発医薬品（ジェネリック医薬品）の効率的採用などによる費用の削減を目指した。</p> <p>・医薬品のコスト削減への取り組み状況 先発品から後発品に、院内コンセンサスを得ながら変更した。</p> <p>・コンサルタント活用による情報収集と診療材料のコスト削減への取り組み。</p> <p>・ジェネリック医薬品使用実績 (%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>21</th> <th>22</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>使用率</td> <td>6.4</td> <td>6.5</td> <td>9.7</td> </tr> </tbody> </table>	年度	21	22	目標	使用率	6.4	6.5	9.7	III	<p>医薬品・診療材料の在庫管理を適正に行い院内在庫を必要最小限に抑える。また、後発医薬品（ジェネリック医薬品）の積極的採用（採用率を数量ベース・採用品目ベースともに15%以上）や他病院の契約単価の調査などにより、医薬品については13%、診療材料については10%（対医療収益比率）を材料費の削減目標として費用削減を図る。</p> <p>さらに費用対効果を勘案しつつ、調達代行や価格交渉支援の外部委託を検討する。</p> <p>項目番号54</p>	<p>・医薬品については前年度と比較して微減となったが（△0.7%）、手術件数の増加等により、診療材料費が支払額ベースで対前年度比16.6%増となった。</p> <p>・また医療収益に占める材料費の比率は25.9%となり21年度と比較して1.6ポイント低下した。</p> <p>○医薬品及び診療材料費の対医療収益比率の対前年度比較</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H21</th> <th>H22</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品費</td> <td>16.3%</td> <td>14.4%</td> </tr> <tr> <td>診療材料費</td> <td>10.2%</td> <td>10.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○医薬品及び診療材料費の対前年度比較（単位：千円）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>増減率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品費</td> <td>1,951,674</td> <td>1,937,995</td> <td>△0.7%</td> </tr> <tr> <td>診療材料費</td> <td>1,220,325</td> <td>1,423,213</td> <td>+16.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ジェネリック医薬品の採用状況（採用率）の対前年度比較</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H21</th> <th>H22</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>品目ベース</td> <td>9.4%</td> <td>10.1%</td> </tr> <tr> <td>金額ベース</td> <td>8.7%</td> <td>10.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・院外処方箋の発行率については96.8%となり、21年度と比較して0.4ポイント上昇した。</p> <p>・医薬品や診療材料にかかる価格交渉や病院経営についてのアドバイスを行う支援業者との委託契約締結に向けての準備を整えた。</p>	年度	H21	H22	薬品費	16.3%	14.4%	診療材料費	10.2%	10.5%	年度	H21	H22	増減率	薬品費	1,951,674	1,937,995	△0.7%	診療材料費	1,220,325	1,423,213	+16.6%	年度	H21	H22	品目ベース	9.4%	10.1%	金額ベース	8.7%	10.0%	II	<p>(1) 在庫管理の徹底 項目番号49 薬剤・診療材料については、在庫管理システムによる管理を徹底するとともに、新規規格品購入時には、原則として類似品を廃止することで、費用の削減を図る。</p>	<p>医薬品・診療材料は、物流システムの利用により重複購入・誤払出防止など適正在庫の実現と在庫圧縮に努めることで費用削減を図ったほか、新規品目採用時は薬事委員会・診療材料委員会で審議の上採択することとし、その際は原則として類似品目を削除するよう努めた。</p> <p>◆医療収益に対する材料費比率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品費</td> <td>11.7%</td> <td>12.1%</td> </tr> <tr> <td>診療材料費</td> <td>8.3%</td> <td>8.2%</td> </tr> <tr> <td>材料全体</td> <td>21.4%</td> <td>21.6%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	21年度	22年度	薬品費	11.7%	12.1%	診療材料費	8.3%	8.2%	材料全体	21.4%	21.6%	III
年度	21	22	目標																																																							
使用率	6.4	6.5	9.7																																																							
年度	H21	H22																																																								
薬品費	16.3%	14.4%																																																								
診療材料費	10.2%	10.5%																																																								
年度	H21	H22	増減率																																																							
薬品費	1,951,674	1,937,995	△0.7%																																																							
診療材料費	1,220,325	1,423,213	+16.6%																																																							
年度	H21	H22																																																								
品目ベース	9.4%	10.1%																																																								
金額ベース	8.7%	10.0%																																																								
項目	21年度	22年度																																																								
薬品費	11.7%	12.1%																																																								
診療材料費	8.3%	8.2%																																																								
材料全体	21.4%	21.6%																																																								
◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント			◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント																																																				

岐阜県総合医療センター			岐阜県立多治見病院			岐阜県立下呂温泉病院		
H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		H22 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価	
	業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価
						<p>(2) 経営意識の向上 <u>項目番号 54</u> 毎月の経営情報を院内グループウェアで提供することで、職員全員の経営意識を向上させ、一層の費用削減に繋げる。</p>	<p>経営概要（業務量、収支状況）を院内の掲示板「サイボウズ」に掲示し、職員の経営意識の向上を図った。 H22年12月分の経営概要から掲示開始</p>	III
						◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント		検証 結果
						<p>(3) 内部牽制機能の強化 <u>項目番号 51</u> より安価でより効率的な執行に努めるとともに、内部牽制機能を強化することで、安易な執行の抑制を図る。</p>	<p>物品の請求の際は各部署において責任者（看護部の場合は各セクション責任者から看護部）の承認を受けて請求する等の内部管理体制を徹底した。</p>	III
						◎特筆すべき点・進捗状況評価に関する意見・その他コメント		検証 結果